

上三川町第7次総合計画

－後期基本計画－

令和4年度実施計画事業

評価結果等について

令和5年7月

上三川町

評 価 事 業 一 覧

担当課	ページ 番号	事業名	評価 平均点	委員会 評価
総務課	1	消火栓設置事業	4.67	A
	2	消防団員活動服等更新事業	4.67	A
	3	ハザードマップ作成事業	5.00	A
税務課	4	標準宅地鑑定事業	5.00	A
地域生活課	5	デマンド交通運行事業	4.14	A
健康福祉課	6	重度心身障害者医療費助成事業	4.75	A
	7	地域生活支援拠点等整備事業	5.00	A
	8	特定健康診査・特定保健指導事業	5.00	A
農政課	9	園芸産地振興対策事業	4.14	A
	10	多面的機能支払事業	4.71	A
	11	スマート農業導入支援事業	4.71	A
	12	農村公園維持管理事業	4.71	A
都市建設課	13	道路維持事業	5.00	A
	14	橋梁維持管理事業	5.00	A
	15	道路整備事業	5.00	A
建築課	16	空家等実態調査業務委託事業	4.67	A
上下水道課	17	農業集落排水事業建設事業	4.33	A
教育総務課	18	施設設備維持改修事業（小学校）	5.00	A
	19	施設設備維持改修事業（中学校）	5.00	A
	20	中学生海外派遣事業	5.00	A
生涯学習課	21	しらさぎマラソン大会事業	4.67	A
	22	いちご一会とちぎ国体（第77回国民体育大会）事業	4.67	A

各評価委員によるA、B、Cの3段階評価を、Aを5点、Bを3点、Cを1点として算出した平均点を委員会の評価としています。

【A：平均4点以上 B：平均4点未満3点以上 C：平均3点未満】

令和4年度実施計画事業 評価結果について

1 はじめに

実施計画事業は、「上三川町第7次総合計画」基本構想{平成28(2016)年度～令和7(2025)年度}に示す、上三川町の将来像「共に創る 次代に輝く 安心活力のまち 上三川」の実現を目指し、基本計画に示される主要施策等に基づき、具体的に実施する事務事業となります。

2 進捗状況の検証・評価方法について

【上三川町第7次総合計画-後期基本計画-】に掲げる実施計画事業は令和4年度時点で総計151の事業があり、全事業を4年にわたって評価するものとなります。

本年は10の担当課・22件の事業について、進捗状況を客観的に検証するため、総合計画等評価委員会において評価を行いました。

「評価委員会評価」は、令和7年度に目標を達成するため、令和4年度の実績がどの程度進捗しているかを、下の3段階で評価したものです。

3段階評価 (単年度評価)		A	まちづくりに対して有効である	<ul style="list-style-type: none">このまま事業を進めていくべきであるよりよいまちづくりに貢献している
		B	まちづくりに対して有効であるが、改善の余地がある	<ul style="list-style-type: none">事業について改善する余地がある
		C	まちづくりに対して有効性が少ない	<ul style="list-style-type: none">事業に大幅な工夫・改善が必須と判断される

3 令和4年度の実施状況について

令和4年度実績は、22事業中〇〇事業で「まちづくりに対して有効である」、〇〇事業で「まちづくりに対して有効であるが、改善の余地がある」と評価されました。今後、評価委員会で受けた意見・提言をもとに、令和7年度の目標達成に向けて事業を見直し、推進してまいります。

3段階評価別	事業数	全体に占める割合 (22事業中)
A まちづくりに対して有効である	22	100.0%
B まちづくりに対して有効であるが、改善の余地がある	0	0.0%
C まちづくりに対して有効性が少ない	0	0.0%
合計	22	100.0%

事業評価シート

基本情報	担当課	総務課	係名	防災係																																																																																				
	基本目標	“安心安全・定住”のまちづくり	施策	消防・防災体制の充実																																																																																				
	基本施策	消防・防災体制の充実	事業	消火栓設置事業																																																																																				
	具体的な事業の概要・説明	火災発生時に町民の生命・身体及び財産を守るため、消防水利（消火栓）を整備し、火災時に迅速な消火活動を行える体制を整える。 消防水利（消火栓）の設置は、事業費の軽減を図るため、上水道配水管整備工事に併せ設置する。																																																																																						
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7																																																																															
	消火栓設置数	基	- 5	5 10	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5																																																																															
	<p style="text-align: right;">上段：目標値/下段：実績値</p>																																																																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価の観点</th> <th>基準</th> <th>評価のポイント</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">1 事業の必要性</td> <td>A</td> <td>休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">2 事業の効率性</td> <td>A</td> <td>現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">3 事業の有効性</td> <td>A</td> <td>事業の目的が達成できる、または達成が期待できる</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>事業の目的の達成には改善が必要である</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>事業の目的を達成することが困難である</td> </tr> <tr> <td colspan="4">評価の理由</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td colspan="4">上水道配水管工事の計画に左右される部分がある。</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td>目標達成度</td> <td>後期基本計画(R7まで)における目標達成状況</td> <td>5. 目標超過</td> <td>4. 目標達成</td> <td>3. 目標達成が見込める</td> <td>2. 目標達成が難しい</td> <td>1. 目標に向かっていない</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>事業分析</td> <td>今後の取組</td> <td colspan="8">災害時に水道管の破損による消火栓の機能が低下した場合などを想定し、防火水槽の配置について検討する必要がある。</td> </tr> <tr> <td>2次評価</td> <td>コメント</td> <td colspan="7"> <ul style="list-style-type: none"> ・補充数も達成しているようなので、進捗について問題はない。 ・町民の安心安全のためには住民の少ないところや細い水道管の場所にも配慮してほしい。 ・住宅地、市街化区域内に消火栓が行き渡っていることが確認できて良かった。今後も継続して新設、更新をお願いしたい。 ・火災時に町民・その他の生命を守るため、整備を継続し欲しい。 部材高騰しておりコスト増が見込まれるが、予算とのバランスを見て対応願いたい。 </td> <td>評価</td> <td>A</td> </tr> </tbody></table>										評価の観点	基準	評価のポイント	評価	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）	A	B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある	C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない	2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる	B	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある	3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる	A	B	事業の目的の達成には改善が必要である	C	事業の目的を達成することが困難である	評価の理由										上水道配水管工事の計画に左右される部分がある。										目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない				事業分析	今後の取組	災害時に水道管の破損による消火栓の機能が低下した場合などを想定し、防火水槽の配置について検討する必要がある。								2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・補充数も達成しているようなので、進捗について問題はない。 ・町民の安心安全のためには住民の少ないところや細い水道管の場所にも配慮してほしい。 ・住宅地、市街化区域内に消火栓が行き渡っていることが確認できて良かった。今後も継続して新設、更新をお願いしたい。 ・火災時に町民・その他の生命を守るため、整備を継続し欲しい。 部材高騰しておりコスト増が見込まれるが、予算とのバランスを見て対応願いたい。							評価
評価の観点	基準	評価のポイント	評価																																																																																					
1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）	A																																																																																					
	B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある																																																																																						
	C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない																																																																																						
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる	B																																																																																					
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある																																																																																						
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある																																																																																						
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる	A																																																																																					
	B	事業の目的の達成には改善が必要である																																																																																						
	C	事業の目的を達成することが困難である																																																																																						
評価の理由																																																																																								
上水道配水管工事の計画に左右される部分がある。																																																																																								
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない																																																																																		
事業分析	今後の取組	災害時に水道管の破損による消火栓の機能が低下した場合などを想定し、防火水槽の配置について検討する必要がある。																																																																																						
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・補充数も達成しているようなので、進捗について問題はない。 ・町民の安心安全のためには住民の少ないところや細い水道管の場所にも配慮してほしい。 ・住宅地、市街化区域内に消火栓が行き渡っていることが確認できて良かった。今後も継続して新設、更新をお願いしたい。 ・火災時に町民・その他の生命を守るため、整備を継続し欲しい。 部材高騰しておりコスト増が見込まれるが、予算とのバランスを見て対応願いたい。							評価	A																																																																														

事業評価シート

基本情報	担当課	総務課	係名	防災係						
	基本目標	“安心安全・定住”のまちづくり		施策	消防・防災体制の充実					
	基本施策	消防・防災体制の充実		事業	消防団員活動服等更新事業					
	具体的な事業の概要・説明	消防団員の装備の基準及び消防団員制服基準に基づき、活動時の装備品を整備する。 また、甚大化する豪雨災害等に備え、活動装備品の充実を図る。 被服等の計画的な更新や活動装備品の充実に努め、消防団員の士気向上を図る。								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	消防団員数	人	- 241	250 238	250 240	250 241	250	250	250	
	上段：目標値/下段：実績値									
	<p>消防団員数</p> <p>■ 目標 ● 実績</p>									
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価			
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる(法に抵触する)				A			
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある							
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない							
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				A				
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある								
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある								
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				B				
	B	事業の目的の達成には改善が必要である								
	C	事業の目的を達成することが困難である								
評価の理由										
消防団員の活動装備品の充実を計画的に整備できたが、消防団員の定数確保について改善が必要である。										
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない				
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)									
事業分析	今後の取組	計画に基づき活動装備品の充実を図り、消防団員と協議してより有能な装備品を支給し甚大化する災害に対応していく。 消防団員数についても、広報紙や町HPなどを用いてイメージアップを図ることで、定員が確保できるよう検討していく。								
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> 消防団員のなり手不足が懸念である。何か対策を検討してほしい。 整備品等は可能な限り最新のものを良いして欲しい。人材を確保するためにも、小中高から教育の中で大切さを啓発して欲しい。 幼稚園小学生のうちから消防・防火活動の重要性を学ぶ機会を増やして意識を高めることが安定した団員の確保に繋がるのではないかと感じる。 消防署での見学会、隊員との触れ合いの機会の増加を図ることも必要と感じる。 消防行事の負担が多いと感じている人が多い現状なので、必要な行事のみを行っていただければ良いのではないかと感じる。 				評価				
					A					

事業評価シート

基本情報	担当課	総務課	係名	防災係						
	基本目標	“安心安全・定住”のまちづくり	施策	消防・防災体制の充実						
	基本施策	消防・防災体制の充実	事業	ハザードマップ作成事業						
	具体的な事業の概要・説明	本町の災害時（風水害）の避難方法等に係る情報を、住民にわかりやすく提供するために「上三川町ハザードマップ」を作成し、被害を最小限にすることを目的とする。								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	上三川町ハザードマップ作成	回				1				
						1				
上段：目標値/下段：実績値										
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価			
	1	事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）				A		
			B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
			C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
	2	事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				A		
			B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある						
			C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある						
3	事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				A			
		B	事業の目的の達成には改善が必要である							
		C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由										
令和4年11月にハザードマップを作成し、全世帯に配布することができた。										
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない				
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）									
事業分析	今後の取組	窓口での配布や広報への掲載を行い住民への周知を継続していく。								
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップの見方について、町民への説明会が必要かと思う。 ・ハザードマップは本当に災害時に役立つものであるにもかかわらず、現状は町民に必要性が伝わっていないように感じる。いつ起こるか分からない災害から身を守るためにも、身近に置いて常時確認できるよう、町民への周知を行ってほしい。 ・予防的にハザードマップが更新されていることが確認できて良かった。 ・土地の売買取引でも、該当する土地がハザードマップ上どうであるか確認する。様々な場面でハザードマップは利用されているので、今後も丁寧な取組を期待する。 						評価		
								A		

事業評価シート

基本情報	担当課	税務課	係名	資産税係					
	基本目標	“協働・健全財政“のまちづくり		施策	自立した自治体経営の確立				
	基本施策	自立した自治体経営の確立		事業	標準宅地鑑定事業				
	具体的な事業の概要・説明	令和6年度評価替えに向けて、不動産鑑定士により標準宅地の鑑定を行うことにより適正な評価額を決定する。							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	鑑定箇所数	ヶ所	175 171			175 171			
上段：目標値/下段：実績値									
<p>指標名</p> <p>180 175 170 165</p> <p>R1... R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p>■ 目標 ● 実績</p>									
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント					評価	
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる(法に抵触する)					A	
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
	2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる					A	
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある						
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある						
	3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる					A	
		B	事業の目的の達成には改善が必要である						
		C	事業の目的を達成することが困難である						
評価の理由									
固定資産評価基準に定められているため。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)								
事業分析	今後の取組	今後、標準宅地の状況確認が必要である。							
2次評価	コメント	引き続き状況を見ながらの対応を。期待している。					評価		
							A		

事業評価シート

基本情報	担当課	地域生活課	係名	生活係					
	基本目標	“交通・交流・連携”のまちづくり	施策	道路・交通網の整備					
	基本施策	道路・交通網の整備	事業	デマンド交通運行事業					
	具体的な事業の概要・説明	デマンド交通かみたん号を1日3台（午前8時から午後6時）運行し、移動手段を持たない人のための交通手段を確保する。							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	1日1台当たりのデマンド交通利用者数	人	- 20.9	27.5 16.9	27.5 19.2	27.5 21.3	27.5	27.5	27.5
	デマンド交通の周知回数	回	- 6	5 6	5 13	5 12	5	5	5
	上段：目標値/下段：実績値								
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価		
	1	事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）				B	
			B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある					
			C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない					
2	事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				B		
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある						
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある						
3	事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				B		
		B	事業の目的の達成には改善が必要である						
		C	事業の目的を達成することが困難である						
評価の理由									
安定した運行を継続していくためにも、適宜、運行方法等の改善・工夫を図っていく。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない			
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）								
事業分析	今後の取組	デマンド交通かみたん号の運行方法等の改善・工夫を図るとともに、認知度向上のための周知を行っていく。							
2次評価	コメント	土曜日の運行を望みます。 ドライバーの教育指導を強く望みます。 ドライバーの教育を町で実施することはできないのでしょうか。				評価			
						A			

事業評価シート

基本情報	担当課	健康福祉課	係名	福祉人権係					
	基本目標	“子ども・健康・福祉”のまちづくり	施策	障がい者支援の充実					
	基本施策	障がい者支援の充実	事業	重度心身障害者医療費助成事業					
	具体的な事業の概要・説明	<p>【事業概要】 重い障がいを持つ者の医療費を助成することにより障がい者の保健と経済的負担を軽減し、もって福祉の増進を図ることを目的とする。</p> <p>【事業説明】 次の者の医療費の自己負担分を助成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者手帳1級、又は2級所持者 ・療育手帳A1・A2所持者 ・身体障害者手帳3級、又は4級所持者であって、かつ知的指数が50以下の者 							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	年間実申請者数	人	- 574	486 511	542 533	542 567	542	542	542
	<p style="text-align: right;">上段：目標値/下段：実績値</p>								
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント					評価	
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる (法に抵触する)					A	
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
	2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる					B	
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある						
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある						
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる					A		
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
第2期障がい者基本計画策定にあたり実施したアンケート結果では、地域で生活するために必要な支援について「経済的な負担の軽減」と回答した方が48.3%と最も多くなっており、直接的な経済的支援である医療費助成事業が果たす役割は大きい。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
事業分析	今後の取組	障がい者の経済的負担を軽減するため、国や県などの動向を見据えつつ経済的支援を継続していく。							
2次評価	コメント	償還払いから現金給付への変更を望みます。 特に子供に対する対応を手厚くすることを願います。 利用者の方が負担なく利用できるような事業展開をお願いします。					評価		
							A		

事業評価シート

基本情報	担当課	健康福祉課	係名	福祉人権係
	基本目標	“子ども・健康・福祉”のまちづくり	施策	障がい者支援の充実
	基本施策	障がい者支援の充実	事業	地域生活支援拠点等整備事業
	具体的な事業の概要・説明	<p>【事業概要】 障がい者等の自立支援の観点から、地域生活に対する安心感を担保し自立した生活を希望する者に対する支援等を進める体制づくりの一環として、地域生活支援拠点整備を実施する。</p> <p>【事業説明】 短期入所を活用した緊急受け入れ態勢を確保した上で、介護者の急病や障がい者の状態変化等により緊急時の受け入れを行う。</p>		

指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
受け入れ態勢の整備	1有 0無	- 0	- 0	- 0	1 1	1 1	1 1	1 1

上段：目標値/下段：実績値

評価の観点	基準	評価のポイント	評価
1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる(法に抵触する)	A
	B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある	
	C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない	
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる	A
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある	
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある	
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる	A
	B	事業の目的の達成には改善が必要である	
	C	事業の目的を達成することが困難である	

評価の理由

各市町村に少なくとも一つを整備することを基本とする指針が示されており、事業の実施は必須である。

目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)					
事業分析	今後の取組	受け入れ態勢を維持するとともに、運用状況の確認等を実施していく。				
2次評価	コメント	障がい者の拠点づくりを進めてほしい。 民間業者の進出が進まないことに問題があります。行政のサポートが必要と感じています。				評価
						A

事業評価シート

基本情報	担当課	健康福祉課	係名	成人健康係						
	基本目標	“子ども・健康・福祉”のまちづくり	施策	健康づくり・医療体制の充実						
	基本施策	健康づくり・医療体制の充実	事業	特定健康診査・特定保健指導事業						
	具体的な事業の概要・説明	40歳から74歳までの国保加入者に対してメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着眼した特定健診及び特定保健指導の実施により、疾病の予防及び心身の健康保持増進を図る。								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	特定健診受診率	%	- 48.8	60 43.6	60 48.7	60 47				
	特定保健指導実施率	%	- 47.1	60 48.8	60 43.6	60 46.5				
	上段：目標値/下段：実績値									
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価			
	1	事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）				A		
			B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
			C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
	2	事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				A		
			B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある						
			C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある						
3	事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				A			
		B	事業の目的の達成には改善が必要である							
		C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由										
特定健診・特定保健指導を実施することで、町民の健康増進を図り健康寿命を延ばすだけでなく、医療費削減が期待できる。										
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない				
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）									
事業分析	今後の取組	特定健診の受診率を上げるため、対象者への制度周知のほか、未受診者への適切な受診勧奨に取り組む。 特定保健指導の該当者に対しては、結果説明会（面接）の参加率向上を目指し、該当者へのアプローチ方法を改善していく。								
2次評価	コメント	対象者への制度周知の強化。参加者のモチベーション維持にも工夫されるとさらにいい事業になる。							評価	
									A	

事業評価シート

基本情報	担当課	農政課		係名	農産園芸係				
	基本目標	“産業・しごと・活力”のまちづくり		施策	農業の振興				
	基本施策	農業の振興		事業	園芸産地振興対策事業				
	具体的な事業の概要・説明	<p>【概要】施設園芸作物の作付拡大や収益性の高い作物、作型に着目した園芸産地を育成することにより、農業経営の安定を図る。また、担い手の育成・確保を図る。</p> <p>【説明】施設園芸の作物の規模拡大又は新規作付のため、パイプハウスを設置する認定農業者又は認定新規就農者に対し、資材費（認定新規就農者は、工事費を含む。）の一部（補助率3/10。ただし、認定農業者は60万円、認定新規就農者は80万円を限度とする。）を補助する。</p>							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	補助に係る周知	回	- 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1
	導入した農業者数	件	- 3	3 2	3 1	3 2	3 1	3 1	3 1
	認定新規就農者の利用数	人	- 0	1 1	1 1	1 0	1 0	1 0	1 0
	<p style="text-align: right;">上段：目標値/下段：実績値</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">導入した農業者数</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">認定新規就農者の利用数</p> </div> </div>								
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント						評価
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）						A
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
	2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる						A
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある						
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある						
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる						A	
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
農業経営の発展を目指す認定農業者等の生産・就農意欲を喚起することができたため。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）								
事業分析	今後の取組	県においては「園芸大国とちぎづくりのフル加速」として、施設園芸の生産拡大等の取組を支援するため、パイプハウスを含めた施設整備の支援をしている。受益面積・受益戸数の要件等を満たせず国県補助事業の対象外となる農業者を町が支援し、国・県と協調した施策を展開していく。更には、パイプハウス以外の支援についても検討していく。							
2次評価	コメント	パイプハウス等の補助金の上乗せを検討してほしい。 新規就農者が始めやすいようにもう少し手厚い補助をしてほしい。 人材不足、資材高騰となっており、農業者への支援をより手厚くしてください。 また、農業経営を目指したくなるような施策を打ち出していただけると幸いです。 新規就農者を増やすことが、農業の振興には重要だと考えます。資金面が一番苦労する部分だと思いますので、予算の増をよろしくお願いします。						評価	A

事業評価シート

基本情報	担当課	農政課	係名	農村振興係						
	基本目標	“産業・しごと・活力“のまちづくり	施策	農業の振興						
	基本施策	農業の振興	事業	多面的機能支払事業						
	具体的な事業の概要・説明	農業・農村は国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成等の多面的な機能を有しており、これらの機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動を支援する。								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	活動組織数	団体	- 5	5 5	6 5	6 6	7	7	8	
	活動面積	ha	- 156.62	155.37 200.34	180 200.34	180 212.78	213	220	240	
	上段：目標値/下段：実績値									
	活動組織数					活動面積				
	評価の観点		基準	評価のポイント				評価		
	1	事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる (法に抵触する)				A		
			B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
			C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
2	事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				A			
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3	事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				A			
		B	事業の目的の達成には改善が必要である							
		C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由										
農業の担い手が減少する中で、農業・農村環境の維持管理を支える仕組みをつくるために有効な事業である。										
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない				
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)									
事業分析	今後の取組	制度の周知を図り、活動組織の掘り起こしを行う。 県、協議会等関係機関と連携し、説明会や普及啓発等を行う。								
2次評価	コメント	農業者へ知ってもらえるような仕組みを作ってください。							評価	
									A	

事業評価シート

基本情報	担当課	農政課	係名	農村振興係						
	基本目標	“産業・しごと・活力“のまちづくり	施策	農業の振興						
	基本施策	農業の振興	事業	スマート農業導入支援事業						
	具体的な事業の概要・説明	スマート農業技術の導入を推進することにより、生産性の向上及び省力化による持続可能な地域農業の振興を図ることを目的とし、スマート農業技術を導入する町内農業者（認定農業者又は認定新規就農者）に対し、対象経費の3分の1の額を補助する。 ・農業用ドローン技術認定取得事業 実技・学科講習に要する費用 （補助金額10万円を限度） ・環境測定装置導入事業 ハウス内環境の測定機器の購入経費 （補助金額10万円を限度） ・アシストスーツ導入事業 購入に要する経費 （補助金額5万円を限度）								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	交付（導入）件数	件				5 4	7	10	10	
上段：目標値/下段：実績値										
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価			
	1	事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）				A		
			B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
			C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
	2	事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				A		
			B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある						
			C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある						
3	事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				A			
		B	事業の目的の達成には改善が必要である							
		C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由										
農家の高齢化が進むなか、スマート農業の導入により農作業の省力化が図れる。										
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない				
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）									
事業分析	今後の取組	スマート農業技術推進のため、引き続き制度や技術導入に関する周知等により農業者の方へのスマート農業技術の普及を図る。								
2次評価	コメント	補助項目を増やす必要があると思う。 個々にあった制度を細やかに周知してほしい。							評価	
									A	

事業評価シート

基本情報	担当課	農政課	係名	農村振興係					
	基本目標	“自然・環境”のまちづくり	施策	公園・緑地・水辺空間の整備					
	基本施策	公園・緑地・水辺空間の整備	事業	農村公園維持管理事業					
	具体的な事業の概要・説明	本町農村公園の景観を維持し、公園利用者が安全・安心で快適に公園を利用できるように、常に公園を適正な状態に維持管理する。公園管理、駐車場棟管理、ポンプ保守点検を業務委託。							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	業務委託による適正な維持管理		- 1	1 1	1 1	1 1	1	1	1
	農村公園維持管理費用	千円	- 9,876	11,671 11,480	13,514 13,069	13,514 12,004	13,514	13,514	13,514
	上段：目標値/下段：実績値								
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価		
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる (法に抵触する)				A		
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
	2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				A		
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある						
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある						
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				A			
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
公園利用者に安全で快適な環境を提供するため必要性がある。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)								
事業分析	今後の取組	木道等施設の老朽化が進行しているため、早期かつ必要最小限の費用負担での修繕・改修について計画を作成する。							
2次評価	コメント	老朽化が進行しているものは計画通りに改修してください。				評価			
						A			

事業評価シート

基本情報	担当課	都市建設課			係名	整備係				
	基本目標	“交通・交流・連携”のまちづくり			施策	道路・交通網の整備				
	基本施策	道路・交通網の整備			事業	道路維持事業				
	具体的な事業の概要・説明	道路の適切な維持管理を行い、良好な道路環境を確保する。 ・舗装長寿命化修繕計画(概ね5年に1度策定)に基づき、傷んだ舗装を修繕する。既存側溝の清掃等を実施する。 ・緊急的な修繕に対応するため、町内を3地区に分割し、年間を通して維持業者を配置する。 ・街路樹の管理や除草作業を実施し、良好な道路環境を維持する。								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	舗装長寿命化修繕計画に基づく補修延長	m	- 798.4	1110 964.8	1000 1272.3	1000 1283.5	1000	1000	1000	
	上段：目標値/下段：実績値									
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント					評価		
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる(法に抵触する)					B		
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある							
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない							
	2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる					A		
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる					A			
	B	事業の目的の達成には改善が必要である								
	C	事業の目的を達成することが困難である								
評価の理由										
・良好な道路環境の維持は道路管理者の責務であり、今後も計画的に対応する必要がある。										
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない				
事業分析	今後の取組	道路ストックの老朽化に伴い、苦情等も増加している中で、修繕の優先順位を適切に判断し対応していく。除草・街路樹の剪定等、適切な維持管理を実施していく。								
2次評価	コメント	引き続き、傷んだ道路の修繕及び計画的な修繕を期待する。					評価 A			

事業評価シート

基本情報	担当課	都市建設課	係名	整備係					
	基本目標	“交通・交流・連携”のまちづくり	施策	道路・交通網の整備					
	基本施策	道路・交通網の整備	事業	橋梁維持管理事業					
	具体的な事業の概要・説明	橋梁の適切な維持管理を行う。 ・町内306橋の法定点検(5年に1度)を毎年約60橋ずつ実施する。 ・橋梁長寿命化修繕計画(概ね5年に1度策定)に基づき、傷んだ橋梁の修繕を実施する。また、高欄等の修繕を実施する。							
定量評価		単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	修繕橋梁数	橋	- 0.5	1 1	1 0.5	1 1	1	1	1
上段：目標値/下段：実績値									
<p style="text-align: center;">修繕橋梁数</p> <p style="text-align: center;">■ 目標 —●— 実績</p>									
定性評価	評価の観点		基準	評価のポイント					評価
	1	事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる(法に抵触する)					A
			B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある					
			C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない					
	2	事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる					A
			B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある					
			C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある					
3	事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる					A	
		B	事業の目的の達成には改善が必要である						
		C	事業の目的を達成することが困難である						
評価の理由									
・橋梁点検は法定点検であり、5年に1度実施しなければならない。点検結果に基づき適切な修繕を実施する必要がある。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況		5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない		
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)								
事業分析	今後の取組		・15m以上の39橋については専門の業者に依頼、15m以下の267橋は直営により点検を実施する。予算の平準化を図るため、年間の点検数を均して実施する。今後は橋梁の予防保全に取り組んでいく。						
2次評価	コメント		点検のサイクルが法令で決まっていたことがわかって良かった。交通安全・安全な通行のためにも必要な事業である。橋梁は町民の命に係る路、日頃からのメンテナンス、計画的な修繕を期待する。					評価	
								A	

事業評価シート

基本情報	担当課	都市建設課			係名	整備係			
	基本目標	“交通・交流・連携”のまちづくり			施策	道路・交通網の整備			
	基本施策	道路・交通網の整備			事業	道路整備事業			
	具体的な事業の概要・説明	幹線道路を整備することにより、集落間交通の利便性向上を図る。 生活道路や通学路等で狭隘な路線を拡幅整備することにより安心安全な道路網を形成する。 ・道路改良、舗装工事を実施する。							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	道路整備延長	m	500 296.8	500 1010	1400 1054	500 532	500	500	500
	上段：目標値/下段：実績値								
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント					評価	
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる (法に抵触する)					B	
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる					A		
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる					A		
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由 ・町総合計画、都市計画マスタープランに位置付けた幹線道路の整備は、町の発展のため必要性が高い。また、交通事故の危険性のある箇所の解消に向けての道路整備は重要である。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
事業分析	今後の取組	町の政策として進める事業と地域からの要望に対応する事業のバランスを考慮しつつ、国の交付金を活用し、安心安全な道路整備を推進する。							
2次評価	コメント	生活道路や通学路は町民にとっては一番身近な道路、修繕の要望も多いと思う。事業のバランスも町民へわかりやすく説明して、安心安全の道路整備を今後も期待する。 生活道路や通学路の安全確保のため、今後とも計画的な点検や修繕の実施が必要である。 安心安全な道路網の形成に期待。					評価 A		

事業評価シート

基本情報	担当課	建築課	係名	住宅係						
	基本目標	“安心安全・定住”のまちづくり	施策	住宅施策の充実						
	基本施策	住宅施策の充実	事業	空家等実態調査業務委託事業						
	具体的な事業の概要・説明	安心安全・定住のまちづくりに関する施策を策定・展開する際の基礎資料とするため、町内の空家等の件数や腐朽破損度等の実態把握を行う。 建築課で把握している空き家情報と、上下水道課より提供を受けた水道の休止情報を元に、空き家と思われる物件について現地調査を行い、空き家であるかの判定やその腐朽破損度等について確認を行う。								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	空家等実態調査業務委託の実施	件				1				
						1				
上段：目標値/下段：実績値										
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント						評価	
	1	事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる (法に抵触する)						B
			B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
			C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
	2	事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる						A
			B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある						
			C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある						
	3	事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる						A
			B	事業の目的の達成には改善が必要である						
			C	事業の目的を達成することが困難である						
評価の理由										
今後の町の空き家対策を検討するための基礎資料として活用できるデータの取りまとめができた。										
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない				
事業分析	今後の取組	調査により空き家と判定された物件の所有者等に対し、空き家の今後の利活用方針について意向調査等を行う。意向調査の結果を基に、空き家バンク等による空き家の利活用についての働きかけ、また、除却や売却等希望の場合には相談・情報提供を行うなど、空き家の解消に向けた取り組みを行う。								
2次評価	コメント	今後、益々空家の増加を想定し、空家バンクへの登録と移住促進策上三川町のPRが必要と感じた。 空家対策は人口減少に伴い難題。安心安全・明るい町づくりを目指して連携して取り組むことを期待する。						評価	A	

事業評価シート

基本情報	担当課	上下水道課	係名	下水道工務係					
	基本目標	“安心安全・定住”のまちづくり	施策	上・下水道の整備					
	基本施策	上・下水道の整備	事業	農業集落排水事業建設事業					
	具体的な事業の概要・説明	<p>【事業概要】 農業集落の良好な生活環境を確保するとともに、公共用水域の水質の保全を図るため農業集落排水施設を整備する。</p> <p>【事業内容】 事業内容は污水管渠を整備するため掘削した路面の復旧、区域内に新たに宅地化される土地において、集落排水への接続ができるように污水管渠を整備する。</p>							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	路面復旧の進捗度	%	- 88.5	90.6 90.6	92.6 93.5	94.6 94.4	95.3	95.9	96.6
	農業集落排水水洗化率	%	- 76.4	76.9 77.2	77.4 78.9	77.9 79.8	78.4	78.9	79.4
	上段：目標値/下段：実績値								
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価		
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる (法に抵触する)				B		
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
	2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				B		
B		現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
C		事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				A			
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
ほぼ計画どおり路面復旧工事を実施することができた。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
事業分析	今後の取組	水洗化率は目標を達成した。引き続き水洗化率の向上を図る。路面復旧を計画通りに進めていく。							
2次評価	コメント	引き続き目標達成するために積極的に取り組んでいただきたい。				評価			
						A			

事業評価シート

基本情報	担当課	教育総務課	係名	庶務管理係					
	基本目標	“子ども・健康・福祉“のまちづくり	施策	学校教育の充実					
	基本施策	学校教育の充実	事業	施設設備維持改修事業（小学校）					
	具体的な事業の概要・説明	学校施設設備の老朽化による維持修繕や軽微な補修、及び設備工作物等の整備・修理を行い、施設の維持を図るとともに児童の安全を確保する。 なお、維持補修が必要な事案が随時発生するが、事業費の平準化を図る。							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	維持補修事業費	千円	- 4720	5600 9853	5600 891	5600 8607	5600	5600	5600
	<p>上段：目標値/下段：実績値</p>								
	<p>維持補修事業費</p> <p>15000 10000 5000 0</p> <p>R1... R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p>■ 目標 — 実績</p>								
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価		
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）				A		
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
	2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				B		
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある						
C		事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				A			
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
学校施設設備の老朽化による維持修繕や軽微な補修、及び設備工作物等の整備・修理を計画的に実施し、生徒の安全を確保できた。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）								
事業分析	今後の取組	施設における経年劣化による修繕、補修箇所が多いことから、当該事業は優先順位を設け、事業費の平準化を図りながら実施していく。							
2次評価	コメント	事業の効率をよく考えていただき、子どもたちの安全安心のため対策をとっていただきたい。 少子化で建て替えが厳しいと思いますが、補修、修繕、予防により、児童の安全確保を図っていただきたい。				評価			
						A			

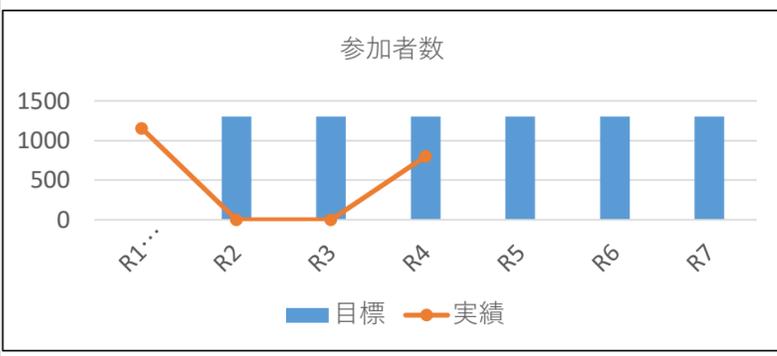
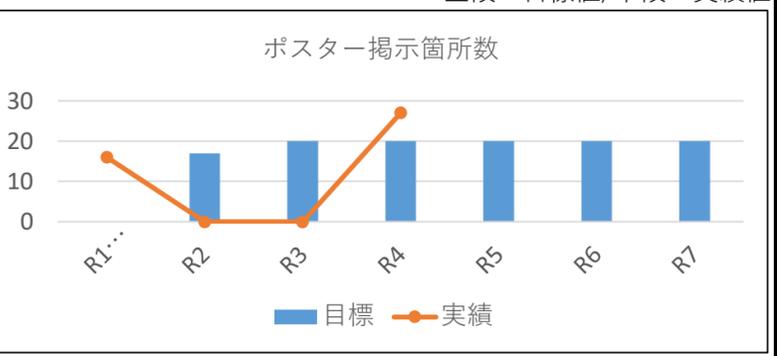
事業評価シート

基本情報	担当課	教育総務課	係名	庶務管理係						
	基本目標	“子ども・健康・福祉”のまちづくり		施策	学校教育の充実					
	基本施策	学校教育の充実		事業	施設設備維持改修事業（中学校）					
	具体的な事業の概要・説明	学校施設設備の老朽化による維持修繕や軽微な補修、及び設備工作物等の整備・修理を行い、施設の維持を図るとともに生徒の安全を確保する。 なお、維持補修が必要な事案が随時発生するが、事業費の平準化を図る。								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	維持補修事業費	千円	- 5659	5600 7043	5600 3588	5600 5902	5600	5600	5600	
	上段：目標値/下段：実績値									
	<p style="text-align: center;">維持補修事業費</p> <p style="text-align: center;">■ 目標 ● 実績</p>									
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント					評価		
	1	事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）					A	
			B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
			C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
2	事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる					A		
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3	事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる					A		
		B	事業の目的の達成には改善が必要である							
		C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由										
学校施設設備の老朽化による維持修繕や軽微な補修、及び設備工作物等の整備・修理を計画的に実施し、生徒の安全を確保できた。										
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない				
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）									
事業分析	今後の取組	施設における経年劣化による修繕、補修箇所が多いことから、当該事業は優先順位を設け、事業費の平準化を図りながら実施していく。								
2次評価	コメント	小学校も同様ですが、予算が少ない。						評価		
								A		

事業評価シート

基本情報	担当課	教育総務課	係名	学校教育係					
	基本目標	“子ども・健康・福祉“のまちづくり	施策	学校教育の充実					
	基本施策	学校教育の充実	事業	中学生海外派遣事業					
	具体的な事業の概要・説明	中学生を海外に派遣し、現地の生徒や家族との交流を通して生活や文化に触れるとともに、外国語による表現力と理解力を高め、国際感覚豊かな青少年の育成と国際交流の推進を図る。							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	海外派遣事業費	千円	- 8,170	-	909 906	2,708 2,183	8,875	13,262	13,262
	上段：目標値/下段：実績値								
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価		
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる (法に抵触する)				A		
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
	2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				B		
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある						
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある						
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				A			
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
	評価の理由								
	児童・生徒が外国の言語・文化に対する理解を深める貴重な体験であるとする。 R4年度は新型コロナウイルス感染症対策として、福島県にあるBritish Hillsで実施した。								
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない			
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)								
事業分析	今後の取組	海外渡航に対して、渡航経費が高騰している状況であるが、今後の状況を注視しながらオーストラリアのケアンズでの実施が可能か検討していく。							
2次評価	コメント	本物に触れるということは、子どもにとって何物にも代えがたいものがあるので、今後も続けて欲しい。希望する子全員が参加できるような事業にしてほしい。 参加できなかった子どものフォローはあるのでしょうか。				評価			
						A			

事業評価シート

基本情報	担当課	生涯学習課	係名	スポーツ係					
	基本目標	“人・文化・スポーツ”のまちづくり	施策	スポーツの振興					
	基本施策	スポーツの振興	事業	しらさぎマラソン大会事業					
	具体的な事業の概要・説明	マラソンはだれでも楽しむことができ、自己の健康維持や体力の保持増進に最適なスポーツである。また、本大会は日産自動車栃木工場のテストコースを走行することができる稀有な特徴のある大会で、町内外への参加者へ上三川町をPRし、上三川ブランドの向上を図る絶好の大会である。							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	参加者数	人	- 1154	1300 0	1300 0	1300 802	1300	1300	1300
	PRポスター掲示	箇所	- 16	17 0	20 0	20 27	20	20	20
	上段：目標値/下段：実績値								
 <p>参加者数</p> <p>Y軸: 0, 500, 1000, 1500</p> <p>X軸: R1..., R2, R3, R4, R5, R6, R7</p> <p>■ 目標 (青い棒) ● 実績 (オレンジの線)</p>					 <p>ポスター掲示箇所数</p> <p>Y軸: 0, 10, 20, 30</p> <p>X軸: R1..., R2, R3, R4, R5, R6, R7</p> <p>■ 目標 (青い棒) ● 実績 (オレンジの線)</p>				
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価		
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる (法に抵触する)				A		
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				B			
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				A			
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
大会を実施することにより、町のスポーツ振興、町外からの参加者への町の特産物等のPRが期待できる。より多くの人の参加を見込むためには、ランナーや町民が魅力を感じる大会への工夫が必要である。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)								
事業分析	今後の取組	コースの見直しを含め、距離設定(フルやハーフ)の検討調整。会場での様々な形での町のPR方法を検討し魅力ある大会を目指す。							
2次評価	コメント	<p>今後はハーフマラソンを大会の目玉にして、マラソン大会を盛り上げて欲しい。</p> <p>今後もフェンシング人口やファンが増えるよう、事業の継続した取り組みに期待する。</p> <p>野球やサッカーと比較するとまだまだメジャースポーツとは言えないが、町として盛り上げようとする姿勢は素晴らしい。今後に期待する。</p>				評価			
						A			

事業評価シート

基本情報	担当課	生涯学習課	係名	国体推進係					
	基本目標	“人・文化・スポーツ”のまちづくり	施策	スポーツの振興					
	基本施策	スポーツの振興	事業	いちご一会とちぎ国体(第77回国民体育大会)事業					
	具体的な事業の概要・説明	「いちご一会とちぎ国体」のフェンシング競技の開催に向け、会場準備やおもてなしの体制づくりを進めるとともに、大会開催による遺産（レガシー）が長期にわたり引き継がれるよう、フェンシング競技の普及・啓発に取り組む。							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	国体ボランティア登録人数	人		-	100	100			
	フェンシング教室 参加者数	人/回		7	10	15			
				6	8.9	14			
上段：目標値/下段：実績値									
<p>国体ボランティア登録人数</p>					<p>フェンシング教室 参加者数</p>				
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価		
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）				B		
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
	2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				A		
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある						
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある						
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				B			
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
いちご一会とちぎ国体については関係団体の協力により準備・当日まで順調に開催することができた。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）								
事業分析	今後の取組	国体終了後に、国体が一過性のイベントとならないよう、フェンシング教室を継続しフェンシング競技の普及に努める。また、国体を契機にリニューアルした町体育センターを活用し、スポーツ人口の増加を図るとともに、栃木県スポーツコミッションに参画することにより、大会や合宿を誘致し交流人口の増加を図る。							
2次評価	コメント	今後もフェンシング人口やファンが増えるよう、事業の継続した取り組みに期待する。 野球やサッカーと比較するとまだまだメジャースポーツとは言えないが、町として盛り上げようとする姿勢は素晴らしい。今後期待する。				評価			
						A			